

枝肉格付の現場で活用するためには、まだまだ改善すべき点はあるものの、将来の機械による格付けの補助ツールとなることが期待されている。

以上のように、牛枝肉横断面の客観的評価法の技術レベルは格段に進歩し、実用化フェーズに移行する段階となった。今後は、「ジ

ューシーさ」や「やわらかさ」といった官能評価値を非破壊的に計測する方法などの研究により、よりおいしい牛肉を届けられる日が来ることが期待されている。

(この原稿は「産学官連携ジャーナル」
2017年8月号に掲載されました)

研究者からのメッセージ 十勝を肉牛生産の最先端基地に

最近の研究で和牛枝肉市場での取引価格と連動性がみられる画像解析データを基準にした「和牛総合指数」という新たな指標を考案しました。和牛総合指数は、枝肉の平均単価を、歩留基準値、霜降りの面積割合やその形状といった取引価格と連動する3つのデータで総合的に補正して、枝肉重量を乗じたものです。

和牛総合指数によって優れた種雄牛や繁殖雌牛が分かり、良い牛を生み、高品質の牛肉を生産するために、どのような血統や雌雄の組み合わせが有効なのかを判断できます。

この情報を地域で共有して育成に生かせば、ブランド化や優良肉牛の産地形成が可能になります。これまでの肉牛の改良といえば、枝肉の重量や霜降りの状態など単独の能力データを尺度にしましたが、和牛総合指数を利用することでよりバランスの良い改良が可能となります。

まず、十勝で和牛総合指数を導入しようと考えています。十勝には広大な土地があり、十勝の人はオープンで事業展開の可能性を感じます。黒毛和牛は世界の舞台で通用する競争力を秘めているだけに今後、世界の市場とどう渡り合うかが問われています。十勝が肉牛生産の最先端基地になることを期待しています。



くちだ・けいご
1965年東京都生まれ。
福島県で中・高校時代を過ごし、92年東北大学大学院農学研究科博士後期課程修了。95年帯広畜産大助手、2003年同大助教授、07年同大教授。専門は家畜育種学。